

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-92012

(P2014-92012A)

(43) 公開日 平成26年5月19日(2014.5.19)

(51) Int.Cl.

E04H 1/04 (2006.01)

F I

E04H 1/04

A

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 14 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2012-244943 (P2012-244943)
 (22) 出願日 平成24年11月6日 (2012.11.6)

(71) 出願人 390037154
 大和ハウス工業株式会社
 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号
 (71) 出願人 000109152
 ダイワラクダ工業株式会社
 大阪府大阪市西区阿波座一丁目5番16号
 (74) 代理人 100096839
 弁理士 曾々木 太郎
 (72) 発明者 福田 稔久
 大阪市北区梅田三丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
 (72) 発明者 泊 美穂
 大阪市北区梅田三丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内

最終頁に続く

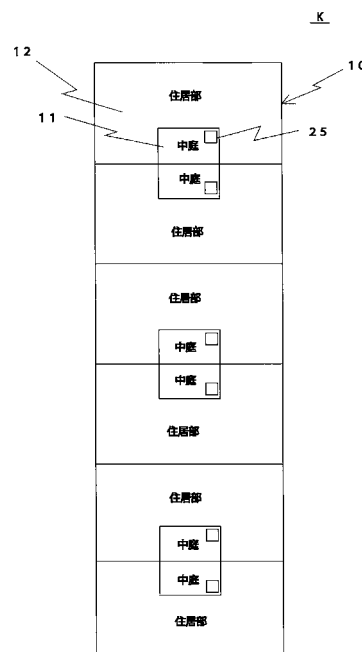
(54) 【発明の名称】 集合住宅

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】中庭が確保されるとともに、屋上も有効活用がされてなる平屋の集合住宅を提供する。

【解決手段】複数の平屋住戸10を隣接させて配設してなる集合住宅Kであって、各平屋住戸10は矩形状とされ、隣接する各住戸10の中央部に中庭11、11が隣接させて設けられてなるもので、屋上に遊歩道や屋上庭園が設けられ、中庭11の適宜位置、例えば角に設けられたラセン階段25により上がるようにした構成とした。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数の平屋住宅を隣接させて配設してなる集合住宅であって、
前記各平屋住宅は矩形状とされ、前記隣接する各住戸の中央部に中庭が隣接させて設けられてなることを特徴とする集合住宅。

【請求項 2】

屋上に周回状に屋上庭園が設けられてなることを特徴とする請求項 1 記載の集合住宅。

【請求項 3】

中庭に屋上庭園への階段が配設されてなることを特徴とする請求項 2 記載の集合住宅。

【請求項 4】

階段がラセン階段とされてなることを特徴とする請求項 3 記載の集合住宅。

【請求項 5】

ラセン階段の上り口上の半ピッチ分の踏板が回転収納可能とされてなることを特徴とする請求項 4 記載の集合住宅。

【請求項 6】

ラセン階段の踏板下のスペースが収納スペースとされてなることを特徴とする請求項 4 記載の集合住宅。

【請求項 7】

屋上庭園の通路に日除けが配設されてなることを特徴とする請求項 2 記載の集合住宅。

【請求項 8】

日除けがシート型太陽電池とされてなることを特徴とする請求項 7 記載の集合住宅。

【請求項 9】

住居部の中央にリビングが配設されてなることを特徴とする請求項 1 記載の集合住宅。

【請求項 10】

リビングの屋根に採光窓が配設されてなることを特徴とする請求項 9 記載の集合住宅。

【請求項 11】

リビングの屋根が幅方向に波形状とされ、前記波型の頂部に採光窓が配設されてなることを特徴とする請求項 10 記載の集合住宅。

【請求項 12】

床下に中庭から出し入れ可能な収納設備が配設されてなることを特徴とする請求項 1 記載の集合住宅。

【請求項 13】

連通している中庭の隣接住戸との境界に開閉式柵が配設されてなることを特徴とする請求項 1 記載の集合住宅。

【請求項 14】

複数の偶数個とされてなることを特徴とする請求項 1 記載の集合住宅。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は集合住宅に関する。さらに詳しくは、各住戸のプライバシーを保ちながら、集合住宅の住民相互のコミュニケーションが図られる集合住宅に関する。

【背景技術】

【0002】

住宅の一形式として集合住宅が知られている。集合住宅においては、複数の家族が施設を共有するため、種々の問題が生じている。そのため、従来より、集合住宅における居住性を改善するため、種々の提案がなされている。

【0003】

例えば、特許文献 1 には、図 12 に示すように、中庭を囲むようにして複数棟の集合住宅 101 が配置された集合住宅 101 の配置構造 K において、中庭の中央部から集合住宅 101 に向けて延びる通路 102 を放射状に配置し、さらに中庭の周囲に中庭を囲むよう

10

20

30

40

50

に通路 103 を配置して、集合住宅 101 , 101 間で住人の行き来を容易にしたものが提案されている。

【0004】

特許文献 2 には、開口部が最大限に確保される集合住宅を提供することを目的として、図 13 に示すように、矩形状に整地された敷地内に通路 201 と、その通路 201 を挟んでその両側に複数の住戸 202 を通路 201 に沿ってそれぞれ長屋風に連続して配置し、そして各住戸 202 はその住戸 202 の一部がその住戸 202 と隣接する住戸 202 との間に平面視矩形状に突出した形状の住戸突出部 203 と専用の中庭 204 と駐車場 205 を配置してなる集合住宅 200 が提案されている。

【0005】

特許文献 3 には、比較的狭い 1 区画の土地を有効に活用し、住戸外のプライベート空間および住戸内のプライバシーを確保し、防犯性に優れた共同住宅を提供することを目的として、図 14 に示すように、1 区画の敷地に複数の住居棟が個別に建設される共同住宅 300 であって、敷地は複数の住居棟 301 が建設された部分と、建設部分以外の部分であり、複数の住居棟 301 に居住する全ての居住者が使用可能な共有部分 302 とを備えてなるものが提案されている。

【0006】

しかしながら、特許文献 1 および特許文献 3 の提案にあっては、独自の庭が欲しいという要求に応えることはできない。

【0007】

特許文献 2 の提案にあっては、中庭 204 と称されていても通路 201 に面しているため、独自の庭といえても、完全な中庭 204 とは言えない。

【0008】

また、いずれの提案においても屋上の活用については、何等の提案もなされていない。

【0009】

さらに、いずれの提案においても平屋の集合住宅についての提案はなされていない。

【0010】

なお、可動収納式ラセン階段については、特許文献 4 に提案がなされている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0011】

【特許文献 1】特開 2000 - 274093 号公報

【特許文献 2】特開 2007 - 321493 号公報

【特許文献 3】特開 2010 - 285806 号公報

【特許文献 4】特開平 5 - 79141 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0012】

本発明はかかる従来技術の課題に鑑みなされたものであって、中庭が確保されるとともに、屋上も有効活用がされてなる平屋の集合住宅を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0013】

本発明の集合住宅は、複数の平屋住宅を隣接させて配設してなる集合住宅であって、前記各平屋住宅は矩形状とされ、前記隣接する各住戸の中央部に中庭が隣接させて設けられてなることを特徴とする。ここで、複数の偶数個とされるのが好ましい。

【0014】

本発明の集合住宅においては、屋上に周回状に屋上庭園が設けられてなるのが好ましい。その場合、中庭に屋上庭園へのラセン階段などの階段が配設されてなるのが好ましい。階段がラセン階段とされた場合、ラセン階段の上り口上の半ピッチ分の踏板が回転収納可能とされていたり、ラセン階段の踏板下のスペースが収納スペースとされていたりするの

10

20

30

40

50

がさらに好ましい。

【 0 0 1 5 】

また、本発明の集合住宅においては、屋上庭園の通路に日除けが配設されてなるのが好ましい。その場合、日除けがシート型太陽電池とされてなるのがさらに好ましい。

【 0 0 1 6 】

また、本発明の集合住宅においては、住居部の中央にリビングが配設されてなるのが好ましい。

【 0 0 1 7 】

また、本発明の集合住宅においては、リビングの屋根に採光窓が配設されてなるのが好ましい。その場合、リビングの屋根が幅方向に波形状とされ、前記波型の頂部に採光窓が配設されてなるのがさらに好ましい。

10

【 0 0 1 8 】

また、本発明の集合住宅においては、床下に中庭から出し入れ可能な収納設備が配設されてなるのが好ましい。

【 0 0 1 9 】

また、本発明の集合住宅においては、連通している中庭の隣接住戸との境界に開閉式柵が配設されてなるのがさらに好ましい。

【発明の効果】

【 0 0 2 0 】

本発明は前記の如く構成されているので、都会であっても広い中庭を持つことができるとともに、平屋であるので家事が楽であるという優れた効果を奏する。

20

【 0 0 2 1 】

屋上に周回状に屋上庭園が配設されている本発明の好ましい形態においては、都会であってもさらに広い庭を持つことができるという優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 2 】

【図 1】本発明の一実施形態に係る集合住宅の一階平面図である。

【図 2】同屋上平面図である。

【図 3】同立面図である。

【図 4】同実施形態における単一住戸の一階平面図であって、逆コの字状を呈するものである。

30

【図 5】同実施形態におけるリビングの屋根の概略図である。

【図 6】同実施形態におけるラセン階段の概略図であって、上り口上の半ピッチ分の踏板が収納された状態を示す。

【図 7】同上り口上の半ピッチ分の踏板が引き出された状態を示す。

【図 8】同実施形態におけるスライド式収設備の説明図である。

【図 9】スライド収納庫の変形例の概略図である。

【図 10】キッチンの床下に設けられた床下収納設備の概略図である。

【図 11】本発明の変形例の概略図であって、屋上庭園の通路にオーニングテント風に太陽電池を配設した状態を示す。

40

【図 12】特許文献 1 の提案に係る集合住宅の概略図である。

【図 13】特許文献 2 の提案に係る集合住宅の概略図である。

【図 14】特許文献 3 の提案に係る集合住宅の概略図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 2 3 】

以下、添付図面を参照しながら本発明を実施形態に基づいて説明するが、本発明はかかる実施形態のみに限定されるものではない。

【 0 0 2 4 】

本発明の一実施形態に集合住宅 K を図 1 ～ 図 3 に示す。

【 0 0 2 5 】

50

集合住宅 K は、図 1 ~ 図 3 に示すように、6 戸の平屋 1 0 を一棟の集合住宅 K としてなるものとされる。各住戸 1 0 は矩形状とされ、各住戸 1 0 の隣接する中央部に中庭 1 1 が連通させて設けられてなるものとされる。つまり、住居部 1 2 は、図 1 および図 4 に示すように、平面視においてコの字状または逆コの字状を呈している。なお、図 4 に示す例は、逆コの字状を呈するものである。

【 0 0 2 6 】

住居部 1 2 は、中央に居間（以下、リビングともいう）が配置された構成とされ、居間（リビング）が各要素、つまり一方に設けられた主寝室および主寝室に隣接する子供部屋と、反対側に設けられたダイニングおよびその奥に設けられたキッチンに通ずるようにされている。

10

【 0 0 2 7 】

リビングの屋根にはリビングの採光のために採光窓が設けられているが、後述する遊歩道や屋上庭園からの視線を遮るため、図 5 に示すように、屋根 1 3 は幅方向に波形状とされ、それ頂部に採光窓 1 4 が設けられるようにされている。

【 0 0 2 8 】

屋上 2 0 には、図 2 に示すように、住民共用の遊歩道 2 1 が周回状に設けられるとともに、屋上庭園 2 2 が点在させて設けられている。遊歩道 2 1 や屋上庭園 2 2 により住民相互のコミュニケーションの促進が図られる。また、この遊歩道 2 1 および屋上庭園 2 2 により中庭 1 1 に加えて広い庭を持つことができ、生活をより楽しむことができる。

20

【 0 0 2 9 】

遊歩道 2 1 へは、中庭 1 1 の適宜位置、例えば角に設けられたラセン階段 2 5 (図 2 参照)により上がるようにされている。ラセン階段 2 5 の上り口上の半ピッチ分の踏板 2 6 は、図 6 および図 7 に示すように、収納可能とされて中庭 1 1 のスペースを無用に占有することがないようにされている。なお、上側の踏板 2 6 の下は、収納スペースとされて収納ボックス 2 7 が置かれるようにされてもよい(図 6 および図 7 参照)。

【 0 0 3 0 】

また、中庭 1 1 の隣接住戸 1 0 との境界には、図示はされていないが、プライバシーを確保するため、高さが 2 メートル程度の開閉式柵が設けられている。なお、開閉式柵に替えて固定式柵とされてもよい。

【 0 0 3 1 】

30

床下には、図 8 に示すように、中庭 1 1 から操作できるようにされたスライド式収納庫 3 1 が収納されるようにされた床下収納設備 3 0 が設けられている。スライド式収納庫 3 1 は三方向に設けられている(図 8 (b) 参照)。つまり、スライド式収納庫 3 1 は、リビングの床下、子供室の床下およびキッチンの床下に収納されるようにして設けられている。これにより、平屋のデメリットである収納スペース不足を解消できる。

【 0 0 3 2 】

ここで、スライド式収納庫 3 1 の正面版 3 2 は、図 9 に示すように、上下に突出した化粧版とされてもよい。

【 0 0 3 3 】

なお、スライド式収納庫 3 1 は、図 1 0 に示すように、キッチンの床下にクロス状に設けられるようにされてもよい。

40

【 0 0 3 4 】

このように、本実施形態によれば、平屋の良さ、例えば家族のコミュニケーションが図りやすい、室内で子供が階段から落ちるおそれがない、掃除などの家事が楽といった平屋の良さを確保しながら、中庭 1 1 の他に広い庭も得ることができる。

【 0 0 3 5 】

以上、本発明を実施形態に基づいて説明してきたが、本発明はかかる実施形態のみに限定されるものではなく、種々改変が可能である。

【 0 0 3 6 】

例えば、図 1 1 に示すように、屋上庭園の通路にオーニングテント風にシート型太陽電

50

池 4 0 を配設して日除け通路としながら発電をするようにされてもよい。しかして、太陽電池 4 0 を設置することにより、集合住宅 K における電力料金の低減が図られる。

【産業上の利用可能性】

【0037】

本発明は住宅産業に適用できる。

【符号の説明】

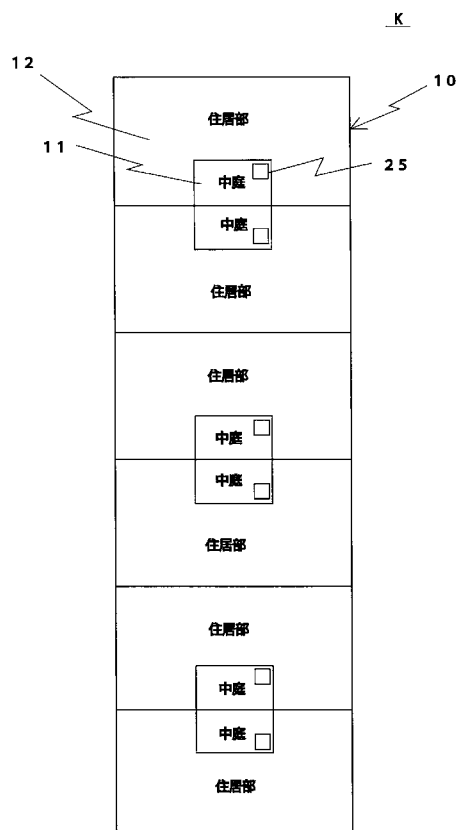
【0038】

K	集合住宅
10	住戸
11	中庭
12	住居部
13	屋根
14	採光窓
20	屋上
21	遊歩道
22	屋上庭園
25	ラセン階段
26	踏板
27	収納ボックス
30	床下収納設備
31	スライド式収納庫
32	正面版
40	シート型太陽電池

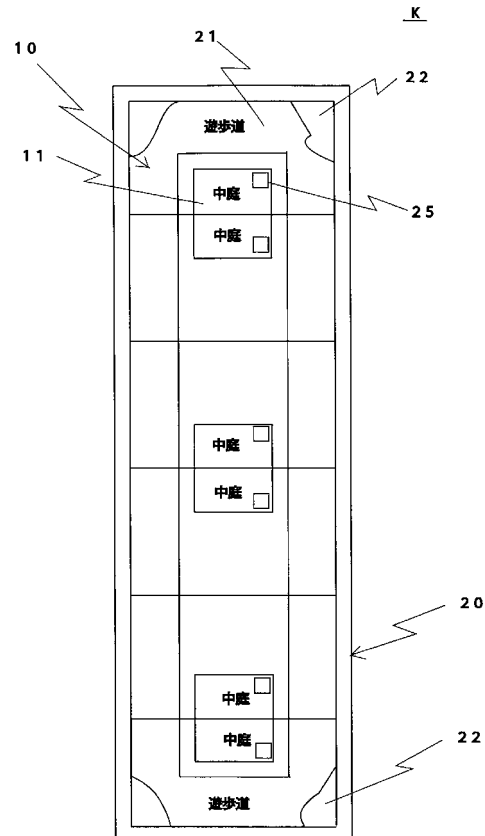
10

20

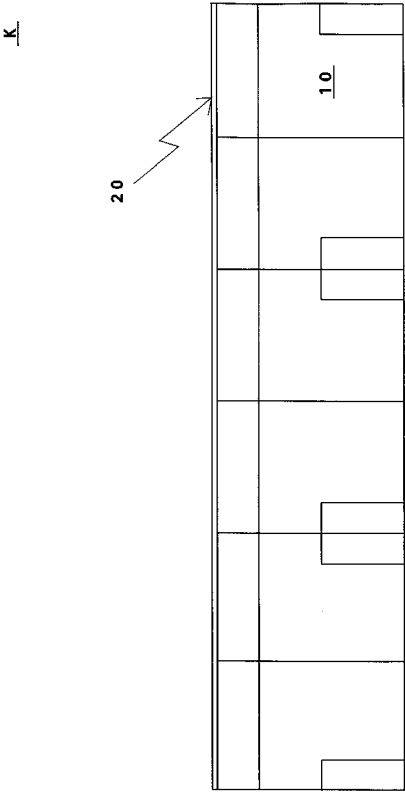
【図 1】



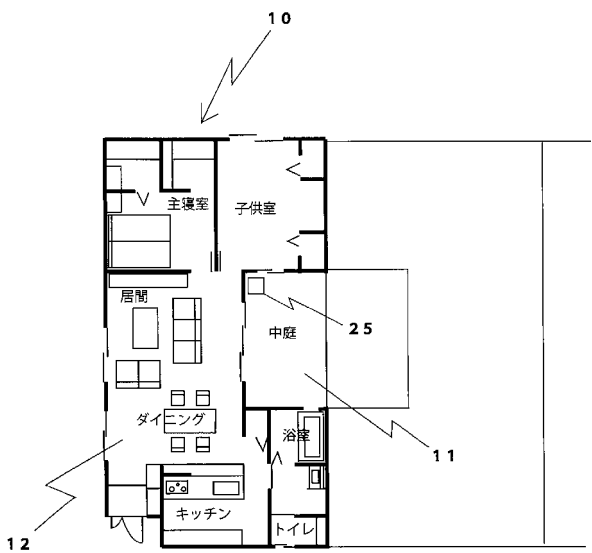
【図 2】



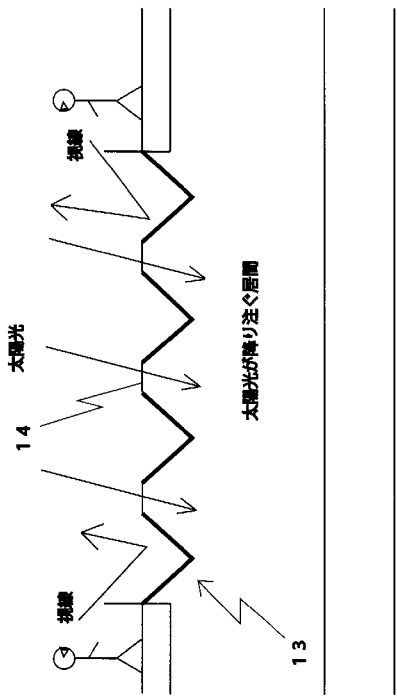
【図 3】



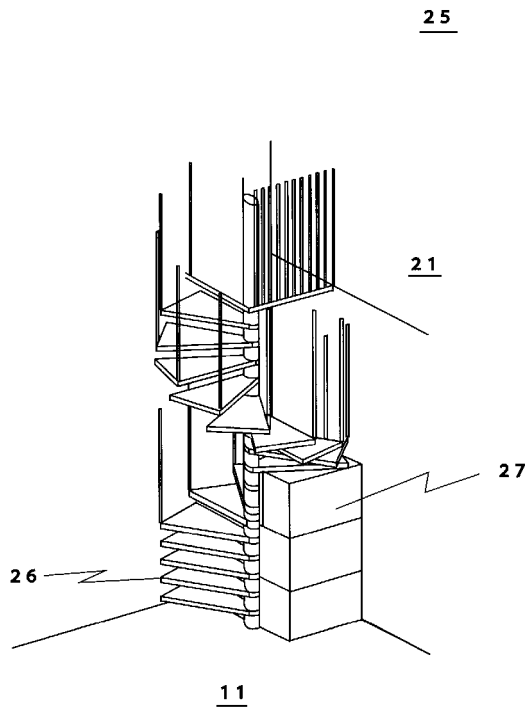
【図 4】



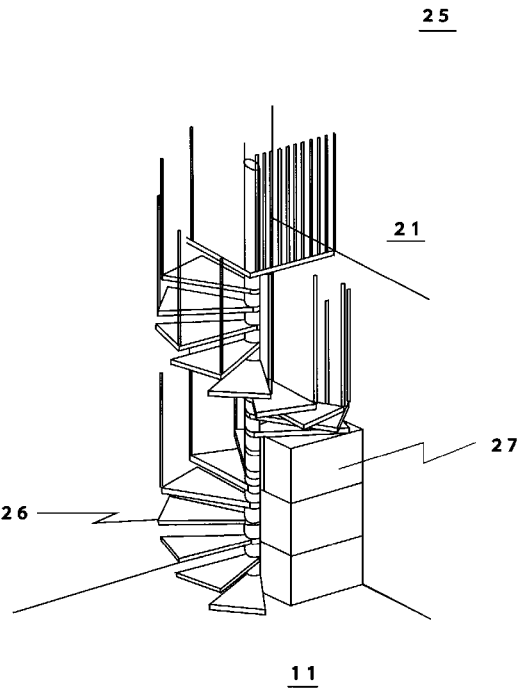
【図 5】



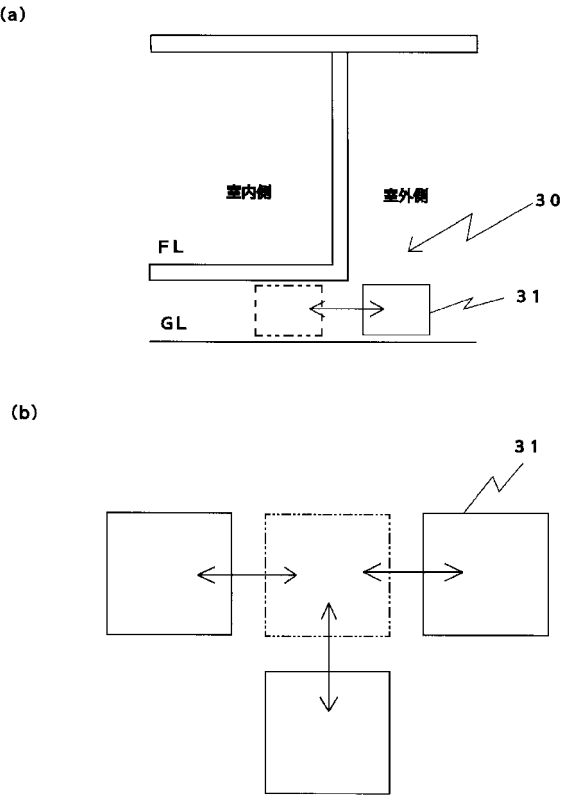
【図 6】



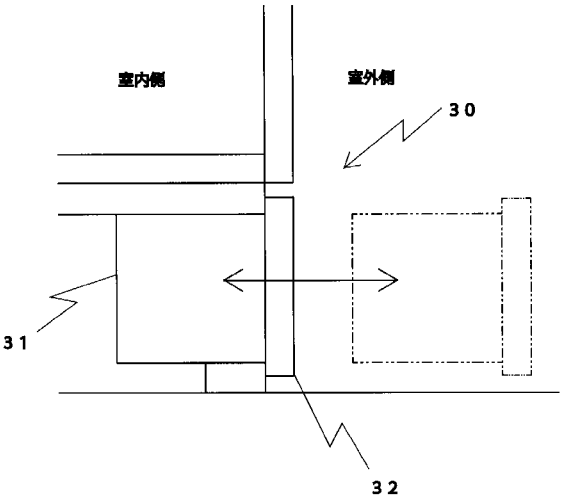
【 図 7 】



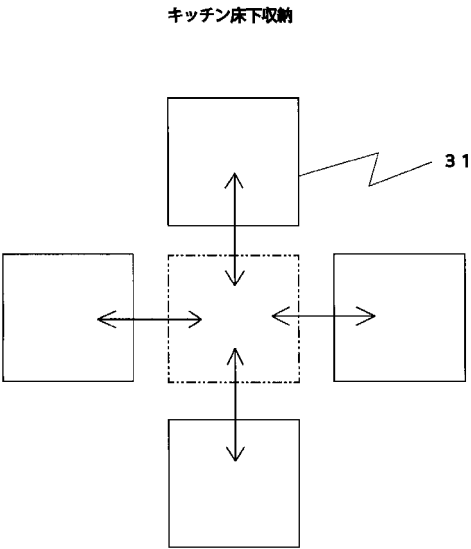
【 図 8 】



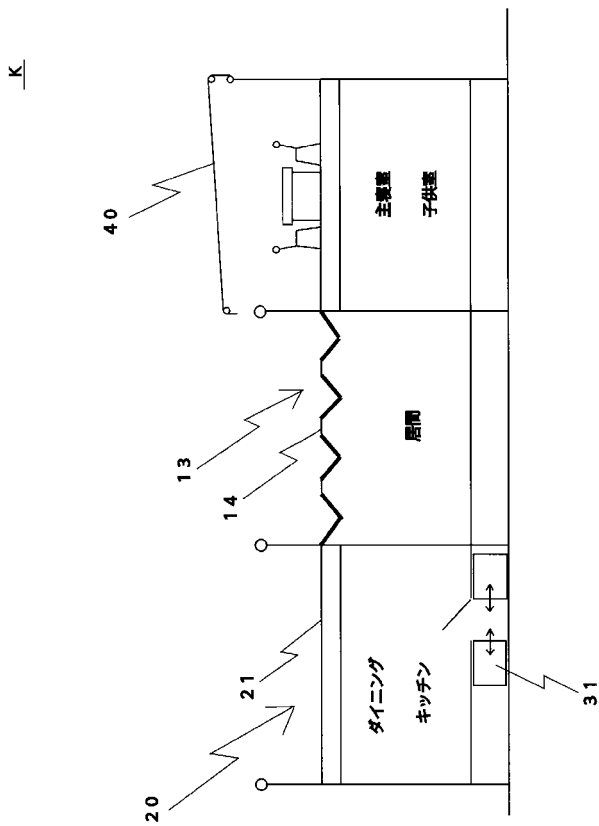
【 図 9 】



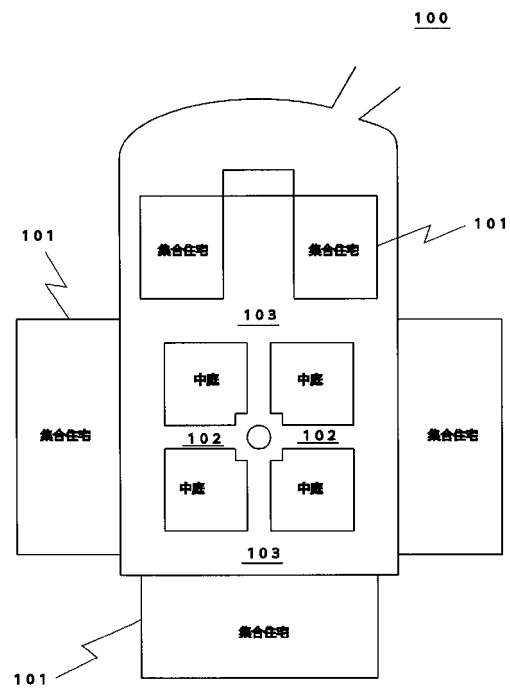
【 図 10 】



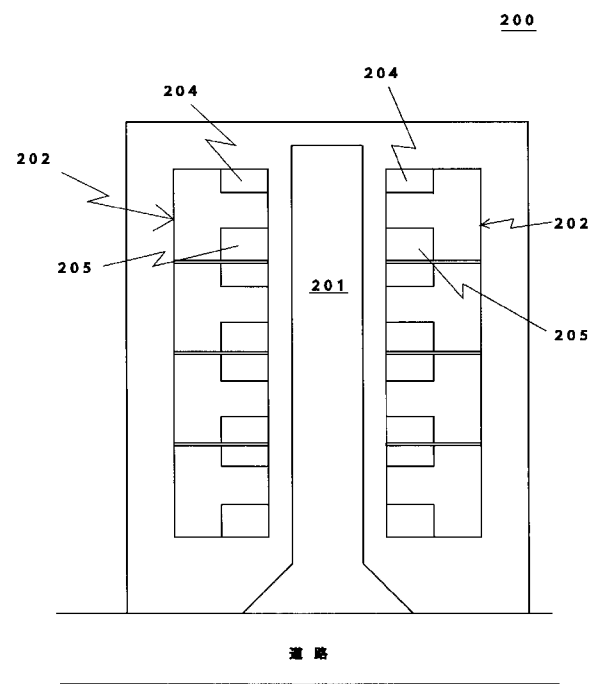
【図 1 1】



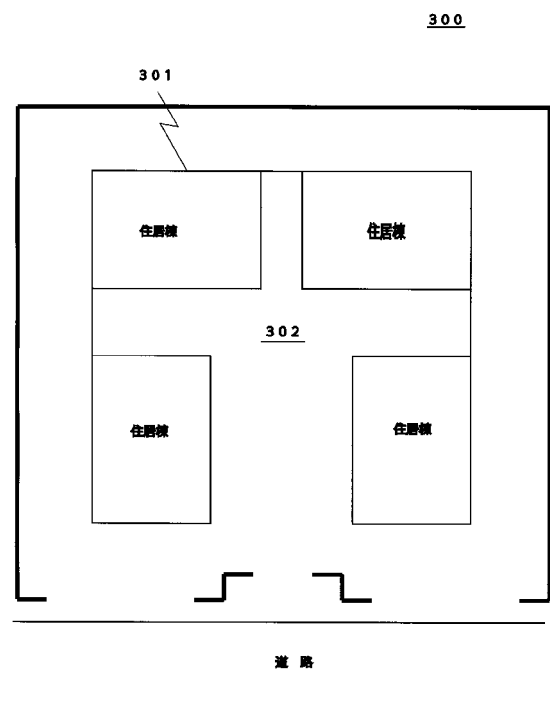
【図 1 2】



【図 1 3】



【図 1 4】



フロントページの続き

(72)発明者 安部 博文

大阪市西区阿波座一丁目5番16号 ダイワラクダ工業株式会社内